

令和6年度 稲荷小学校教育方針

＜令和6年度 京都市学校教育の重点から＞

＜京都市の目指す子ども像＞

「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」

- ◆広い視野と豊かな感性をもち、よりよい人生や社会を創造できる
- ◆様々な学びを生かし、社会的・職業的自立を果たすことができる
- ◆多様な他者と共に生き、学び合い、人権文化の担い手となることができる

＜全教職員で進める学校園づくり5つの柱＞

- 1 「いのち」～子どもの命を守り切る～
- 2 「よりそい」～多様な子どもを誰一人取り残さない教育を進める～
- 3 「つとめ」～教職員の職責を自覚し、研鑽することで、教育の質を高める～
- 4 「ひろがり」～カリキュラム・マネジメントの視点をもって、
社会に開かれた教育課程を実現する～
- 5 「つながり」～校種間連携・接続により子どもを支える～

＜令和6年度 重視する視点＞ ～「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」～

- 主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して、学びの質を高める
- 日々の授業と家庭学習との連動を通して、自学自習の習慣化を図る
- 自他を大切にし、「公共の精神」に基づく態度を育む

<本校が目指す教育>

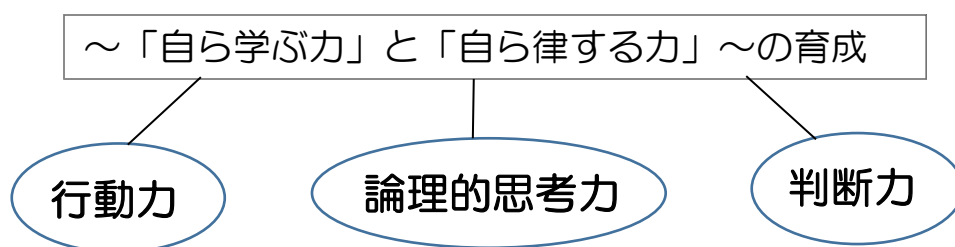
I 学校教育目標

いきいき なかよく りそうに向かって 考動する子

II めざす子ども像

- ① 「いきいき」 ○いきいき主体的に学習できる子
- ② 「なかよく」 ○友だちと仲良く、命ときまりを守りきる子
- ③ 「りそうに向かって」 ○目標に向かって、心や体を鍛える子
- ④ 「いなり」 ○学校・地域を愛する子
- ◎ 「考動する」…「考えて行動する」(思考力・判断力・行動力)

III 子どもたちに育てたい資質・能力



(資質・能力)	(取組)
行動力	子どもが経験する機会を重視。子ども自身も自ら行動する機会を意識し、そこから得たものを友達と交流する機会をもつ。その中で成果は喜び、失敗には学ぶ姿勢を育てる。
論理的思考力	特別活動を要とした企画・推進活動、体験と絡めたプログラミング的活動の実施。また原因と結果を繋げたり、途中経過の大切さを実感できたりする取組。
判断力	様々な集団活動を通して、合意形成を図ったり意思決定したりする経験の場をつくる。判断のもととなる自己の考えを表現する場や機会を大切にする。

<重視する視点>

- 主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して、学びの質を高める。
- 日々の授業と家庭学習との連携を通して、自学自習の習慣化を図る。
- 自他を大切にし、「公共の精神」に基づく態度を育む。
- 健康に関心を持ち、進んで運動を楽しむ姿を目指す。